

# 第 161 回 奈良大宮 RC 山歩き同好会

## 高円山〈大文字 火床〉～芳山～鶯の滝～若草山登山報告

平成 23 年 8 月 7 日（日）晴

参加者 麴谷 小池 飯田 森下 木村 楠原 福村 東田 総勢 8 名

今日は久しぶりに晴れた天候で熱くなりそうだ。

AM 7:35 奈良駅バスターミナルに集合 近場の山を楽しむ山歩きとなった。

8:00 白毫寺バス停にて準備 麴谷会長から[熱中症に注意して、山歩きを楽しみましょう]と挨拶があり 8:00 出発 高円山 大文字 火床を目指す。近くに住みながら、お盆の送り火は遠くから拝むことはあるが、実際 火床を見るのは初めての人がほとんど今日のリーダーは福村さんだ。今日のコースは知り尽くしておられるので 安心だ。

◆ ミンミンと ホーホケッキョが 競演だ  
夏の行い みんな一緒に

急坂を登り火床に到着 8:53 周りの芝生がきれいに刈り取られ 火床はいつでも点火出来る様に全て準備完了していた。ブロックで回りを囲い (1600)角の床はコンクリートで その上に丸太を割った薪が組み立てられていた。大の字に何本 火床があるのか なぜ大文字なのか いつ頃から始められたのか 何の目的で と知らない事ばかり 近くに奈良大文字保存会の碑が建立されていたのでその内容を紹介します。



### 〈慰霊奈良大文字送り火由来〉

8 月 15 日終戦記念日である盂蘭盆のこの日 戊辰戦争を始めとする 2 回に亘る世界大戦や日清・日露の両戦役その他の事変にあたり、国家の悠久を信じ身を鴻毛の軽きにおき一

死をもつて国難に殉じた奈良県主身の英霊 29234 柱の供養のために 故鍵田忠三郎その他有志の発願によって昭和 35 年 8 月 15 日 この高円山に大文字送り火が創始せられ、翌 36 年に故谷井友三郎氏らにより、保存会を発足し 爾来絶えることなく盛大に供養の炬火を燃やし続けて今日に及んでいます。

大の字は宇宙を意味し、人体に潜む 75 法という煩惱の焼却と、諸霊に供養する清浄心を現わすからですとあります。火床は 75 体でした。なぜこの高円山なのか 聖武天皇が離宮を営まれた地であるとともに、弘法大師の師匠の勤操大徳が、石淵寺を開かれた霊山である。又殉国の英霊をお祀りする護国神社の御神体の後の山が高円山なのです。毎年 1 月 15 日の若草山山焼きと、8 月 15 日の大文字送り火は、古都奈良の情緒を観光的にも世界に示す火の祭典となり、永久に絶えることなく伝えつづけられる様願うものであります。

◆ 大文字 ああ殉国の 英霊に  
送り火燃ゆる 永久に絶やさん

火床から見る奈良盆地は、夏空の下明るく 眼下に広がる景観は素晴らしいものでした。高円山から地獄谷へ 石窟仏〈藤原時代から〉は金網で囲まれていた。地獄谷の山林は、巡回人により守られていて、自然も守られている。芳山頂上 518m<sup>h</sup>に到着 11:20 三角点にタッチ 少し下がった所に芳山石仏があり、昼食となった 11:30 三面石に天平後期のものとされる石仏が西面・量感と逞しさ 南面・何とも云えない優しさと 2 面共深い精神面が刻まれた石仏であり大切に保存したいものであります。南面のほほえみの石仏そっくりさん 森下さんと並べて記念写真 石仏の回りで輪になっての食事は楽しいものでした。



◆ 石仏の ほほえみ受けし 山歩き  
みんなの願い 永久に健康

12:30 ゆっくり休憩し出発 興福寺別院鶯滝歓喜夫に立ち寄る。立派な鐘楼と石燈籠が立っていた。

13:30 鶯の滝 滝壺でオゾンを一杯吸いこんで、元気を頂き 最終コース若草山へ向かう 木村さん 笑顔で足取りも軽い

◆ 鶯の 滝の勢い 絶え間なく  
身は清涼と 心静まる

奥山原始林は大きな樹木で覆われ歩いていても涼しい 若草山山頂より左へ下る。春日山遊歩道入口迄下り、山に向かってお礼申し上げ、今日の山登りは終了した。14:50

水谷茶屋で休息 ビールの味は最高でした。ここにも向井リーダーのファンがいた。茶屋の女将である ファンは多い方が良い…うらやましい……

今日は皆元気に山歩きが出来うれしかったです。帰りに銭湯に行ったところ山ヒルの被害で大爆笑 地獄谷で福村さんが1つ吸いつかれた 小池先生が2つ吸いつかれていた風呂場で楠原先生が1つ吸いつかれていたのが判明 以上被害3名でした。

◆ 山ヒルに うまいうまいと 吸いつかれ  
不浄の血こそ もっと出せ出せ

その後〈福村さんのお店 焼肉たつ屋〉で反省会 飯田先生も加わり 真剣に山登りでの注意事項を話し合った 今後の参考になればと思う その後 呑も会面目躍如でした。

18:30 終了

次回 (9月3日～4日)大峰修行です。心して参加して下さい。

多数参加お待ちしております。

平成23年8月7日

東田 幹章記